

さぽせん

あいかわ

第5号

平成21年10月15日発行

編集・発行 あいかわ町民活動サポートセンター
運営委員会

住所 愛川町角田2-5-1番地1

電話 046-205-1323 FAX 046-205-1324

<http://town.aikawa.kanagawa.jp/saposen/index.htm>

あいかわ町民活動サポートセンター

11月1日「第25回 愛川町ふるさとまつり」に サポセンも参加します



(写真は昨年の様子です)

サポセンの登録団体が

活動内容をパネル展示します

休憩をしながらご覧下さい。

近日開催予定のイベント案内

各団体のイベントを紹介します。

この機会にサポートセンター内も

ご覧下さい！

あいかわ町民活動応援事業 4団体に決定！

町民の公益活動を町が資金的なバックアップをするこの
制度で、21年度は次の4団体が採用されました。

(新規)防犯ブザー点検事業

(おもちゃの病院愛川)

(継続)野外観察会

(サークル愛川自然観察会)

(新規)大豆の有機栽培と味噌豆腐の加工

(安全な食を考える会【次ページにも記事あり】)

(新規)共生のまちづくり事業

(愛川福祉懇話会)



4団体あわせて補助金283,000円が認められ、早速これらの活動がそれぞれの団体で進んでいます。

サポセンではこのような町の応援事業や、企業等の助成金制度の情報提供も行っています。



さぽせん あいかわレポート



登録団体活動発表会開催 6月20日

サポセン隣の会議室で、第4回登録団体活動発表会が開催され、会場が一杯になるほどの参加がありました。

「安全な食を考える会」



諏訪部明さんには、88歳というご高齢を感じさせない、すばらしい発表を頂きました。会員とともに、安全な食を考え、情報を交換し、美味しい野菜作りなどを援助し、共に作り共に食べることを目的として活動しているとのことでした。

現在そのために町内4か所の農園を開設し、有機野菜栽培に取り組んでいらっしゃいます。将来はこの野菜を学校給食にも使っていただければとお話してくださいました。

また、町民活動応援事業【前ページ】で、遊休農地も活用して大豆を栽培、愛川の特産品として、みそや豆腐を販売する事業が認められ、活動中です。

「日本の竹ファンクラブ」

竹を使った地域おこしや高齢者の生きがいづくりといった新しい竹の活用を模索しています。

今、一番の課題は竹が邪魔者となっていることだそうです。かつて日本の風景を代表した美しい竹林が今では荒れ放題です。私達の暮らしから、また意識の中から竹が消え、竹への無知や無関心が広がっています。地域の生態系を守るためにも頑張っています。皆様のご支援をお願いしますと締めくくられました。

イベントのお知らせ

09年11月29日午前9時30分から、角田仙台下の竹林で「竹林の間伐と野外料理」というイベントを開催します。竹林の間伐作業体験のあと、間伐材を使っての食器作りを行い、手作りの食器でワイルドに野外料理を楽しむイベントです。ぜひご参加下さい。

開催場所等の案内は日本の竹ファンクラブ <http://homepage3.nifty.com/akafunco>にて案内中。



感想

発表後も活発な質疑応答があり、関心の高さが感じられました。

また、アンケートでは、みなさんから「もっと他の団体の発表を聞きたい」とのご意見を多数頂きました。

町民活動サポートセンターとしては、このような発表会について更に開催していこうと考えています。

登録団体利用者懇談会 3月25日



平日ではありますが参加者40名と、盛況でした。

懇談会はサポセンスタッフ・登録団体・町職員の3者でグループにわかれて意見交換を行い、それをグループごとにとりまとめたのち、斉藤先生(産業能率大学教授)に講評を頂きました。

自由かつ建設的で和やかながら熱気のある話し合いになり、斉藤先生も感心なさっていました。

(参加者の意見)

活動の意見交換などができて、まちづくりの中での町民活動が見えてきた。
現実に活動への町当局や自治会の理解がほしいと感じることがある。
サポセンのフリースペースは利用したが、限界を感じる。
予約できる会議室が欲しい。
団体同士の交流が深まることで、他の団体への関心とともに自らの団体の向上心が出てきている。
各団体のメンバー不足、資金不足、そして活動の相互理解が不足している。
各団体の活動には個人情報への扱いなどで、困る問題がある。
同じような問題を各団体が抱えていることがわかった。
情報交換の拠点としてのサポセン自身の知名度が不足しているのではないかと。
サポセンの広報が回覧板に入るようになったのは良かったのだが、もっと力を入れて欲しい。
サポセンのパソコンサポーターや印刷機などにはたすかっているが、交通の便が悪い。
町側の町民活動への関心が余り感じられない。
児童館など住民活動で使える施設について、対応をもっと柔軟にしてほしい。
サポセンもコーディネートという面でもっとアクティブになってほしい。

(斉藤先生のアドバイス)

メンバー不足 = 各団体の中でコアになってくれる人がしっかりしていれば解決できることもあるのではないかと。

サポセンの知名度 = 多く利用すればいいのか、充実しているのがいいのかと言う点で、まずあせらずにやっていく必要がある。みやすく目立つ看板を作るのもいいのではないかと。

(斉藤先生の講評)

サポセンの設置が成果をあげ、期待も集めているが、施設としての不足を感じる段階になってきた。

また、サポセン側も町民活動の拠点として、団体側に協力の機会や協働事業を仕掛ける仕組みのサポートの必要があり、また施設の強化と柔軟性も求められている。

町側も、サポセンを職員意識の改善の場と認識して、もっと職員が意識改革をしていかないと、これからの地域活動を含めたまちづくりが進まない。町の職員も庁舎内で意識を高めて欲しい。

しかし、人材育成というなかでこの会にこれだけ集まったのは素晴らしい。

魅力的な愛川町づくりへ期待している。

閉会後に斉藤先生にも、サポセン運営についてサポセンスタッフへのさまざまなアドバイスを頂きました。スタッフ一同、ご参加の皆様の熱気に大いに感じるところがあり、それが冷めぬように、さらに活動していこうと決意する会となりました。ご参加いただいた皆様、大変ありがとうございました。

NPOユーラシアンクラブ チャイハナ「愛川サライ」

横顔 設立 平成18年4月

愛川町下谷を拠点としてアジアシルクロードの民族文化の発信を行っており、相模原、厚木を含め約40名の会員がいます。モンゴル文化ナーダム、シルクロードの音楽と暮らし、ヒマラヤの風等々のイベントを行ってきました。今年の10月21日 午後3時 愛川繊維会館にて「シルクロード交流会」を開催予定です。

是非、たくさんの人のご来場をお待ちしております。

問い合わせ先 代表 大野 遼 T E 8524895

代表の声 たくさんの鮎が泳ぐ川が語源の愛川(鮎川)は、関東のホットする空間。自然との共生が町のビジョンであって欲しい。古代からシルクロードの風が吹いた中津川沿いで半原の繊維産業会や有志の方々と一緒にアジアのシルクロードを視野に文化のまちづくりを模索しています。

探訪感想 下谷地区でも奥まった所で、大きな車では大変だが自然環境は素晴らしい場所に「愛川サライ」がありました。この愛川に来られて4年しか経っていないのに代表である大野さんの博識には驚きました。



おもちゃの病院

横顔 設立 平成13年4月

子どもの目の前でおもちゃを分解、修理し子どもがカラクリを知り、科学心を芽生えさせ創造性を養うと共に、物の大切さを認識していただくことを目的として活動しています。現在、小学生の『防犯ブザー』の修理を無料で行っています。スタッフはドクター6名・ナース2名・スタッフ2名です。

問い合わせ先 鈴木忠雄 285 - 290

代表の声 壊れたおもちゃが修理され再び動いたときの子ども笑顔が活動の力になります。壊れたまま捨てないで一度持ってきてください。

探訪感想 おもちゃの病院にはたくさんのドクターが待っています。この活動で物を大切にする気持ちが大きく育ってくれるといいですね。



編集後記

あいかわ町民活動サポートセンターは開設3年目となり、やっと活動に手ごたえを感じるようになりました。先日、愛川サライの取材のために大野代表とお話をする機会がありました。愛川町の将来を真剣に考えている人がここにもいらっしゃいました。サポートセンターは、このような方を応援しています。スタッフ・運営委員は、今後とも努力してまいりますので、皆様方のご支援ご協力よろしくお願いたします。(W

お知らせ サポセンパソコンサポート開催中！ 無料でボランティアがお悩み解決！

場所はサポセンあいかわ。火・日曜は午前10時から、木曜は午後5時30分から開催中！(祝日休み)